

第1回 太田川住民意見を聴く会

全会場 発表一覧及び発表要旨

平成19年10月

国土交通省 中国地方整備局

「第1回 太田川住民意見を聴く会」発表一覧

平成19年10月2日現在

発表番号	会場	性別	年代	御職業	御住所	タイトル	備考
①	西区 西区民文化センター 10月4日(木) 14:00～16:00	男	70	会社員	広島市佐伯区	①水はいのちそのもの②空気(昔)いにしへの校歌に唱われていた水(清き言霊)＝おろそかにせぬ心＝	
②	西区 西区民文化センター 10月4日(木) 14:00～16:00	女	50	看護師	広島市安佐北区	安全で多くの生物が生息し子供たちに思い出が残る太田川	御欠席
③	東区 戸坂公民館 10月6日(土) 19:00～21:00	男	80	元公務員	広島市東区		
④	東区 戸坂公民館 10月6日(土) 19:00～21:00	男	50	公務員	広島市安佐南区	河川の中を一部整備し、「昔たくさんいた淡水魚の増殖」や「子供たちの興味を引く身近な魚釣り場」を考えた池(ワンド)を造る	
⑤	東区 戸坂公民館 10月6日(土) 19:00～21:00	男	40			第1回太田川学識懇談会を拝聴して感じたこと	
⑥	安芸太田町 川・森・文化・交流 センター 10月7日(日) 19:00～21:00	女	70		山県郡安芸太田町	太田川上流の洪水時に思う事	御欠席
⑦	安芸太田町 川・森・文化・交流 センター 10月7日(日) 19:00～21:00	男	70	農林	山県郡安芸太田町	太田川水系の災害防止対策	
⑧	安芸太田町 川・森・文化・交流 センター 10月7日(日) 19:00～21:00	男	70	農業	山県郡安芸太田町		
⑨	安芸太田町 川・森・文化・交流 センター 10月7日(日) 19:00～21:00	男	70	無職	山県郡安芸太田町	河川工事に於る課題について 一坪野新堤の実例によるー	

「太田川住民意見を聴く会」発表要旨

楷書・横書きで400字程度

タイトル ①「水はいのち、そのもの」②「空気」
 (昔)いんしこの校歌に(唱)水は清き言霊
 二おろそかにせぬ心二

いのちをつなぐ水と空気を汚染させてを許したの抜け穴が
 此法を了因や果や市三者一体の
 所業、産業界と密着した甘い汁を
 吸って動く役得を背景に河川の
 測り工場排水等た水流しをすす外
 国、模倣を公然と化学的中和
 して又下水道で、微量物利用飲
 料水として循環されて飲料水を
 頭で買って飲むこと自体おかし
 のと感じないことが、理屈ではな
 く、真理そのもので、佛性神聖その
 もので、寿命のはのも又齋戒の
 もも強神制度のつくりごとで誤
 魔化してなますが這って逃げ
 が如くの口車の上手な小段人
 云の方ほうんざりのおさへ込みな
 お上の戦時中と全く変らぬ水行政は

谷折り

住民を大事にしなさい河川岸にて
 プールやスポーツ場等許可するのには
 はあき水返之ります水は神聖な
 ものなかに気付かぬ心の広さがない
 い昔の三滝の川は川幅狭か、たが點
 がき水に足じようしているのを上流
 へ追っかけて走ったのが懐しい又白
 木山筋溝の水も飲めたのに佳言が建っ
 て変容する故山の清き水しか飲めぬ
 悪魔悪霊の太田川には悲哀を感ず

※個人情報、発表者の受け付け管理、およびご連絡以外の目的では使用いたしません。
 ※発表要旨は太田川水系河川整備計画のホームページでも公表させていただきます。

名前 _____

住所 _____

電番 _____

性 _____

階 _____

発表番号 ①

希望する会場 第1希望 10月4日(西区 西区民文化) (セニター)

①と川 第2希望 月 日 (内輪 太田川)

第3希望 月 日 (電業 → 山へ、摩捨は他教行な川に染)

谷折り

のりしろ(斜線部にのりをつける)

タイトル

何千年も昔から、川は人類文化
 発祥の地として、私達が今日まで
 その恩恵を被ってきたことは、歴
 史の証明するところですよ。
 現在の太田川について、災害の
 防止とか、水質保全等の対策につ
 いては、行政に推進して頂くこと
 とし、私は、現在都市生活をして
 いる者として、次の提案をしたい。
 中流から上流の自然豊かな川岸
 (河川敷)に、家族で一日休息し
 楽しめる場所がほしい。思うに、
 住宅が高層化し、庭を持たない家
 庭が多くなりつつある現在、週末
 を利用して、自家用車で日帰り出
 来る場所に、家族でバーベキュー
 を楽しんだり、水遊びをしたり、
 自然の中で、家族団らんの場所が

谷折り

ほしいのです。主人は平素多忙で、
 家族と特に子ども達と話し合う時
 間がもてない現状にある。それに
 子どもは塾通い、暇があれば勉強
 に追まわられるのでは、社会性
 豊かな市民には育たない。コニフ
 クートとアスファルトの生活から
 せめて一日開放され、家族が、コ
 ミニケーションをはかる場所が、
 是非ほしい。

※個人情報、発表者の受け付け管理、およびご連絡以外の目的では使用いたしません。
 ※発表要旨は太田川水系河川整備計画のホームページでも公表させていただきます。

名前

住所

電話番号

性別

職業

発表番号 ③

- 希望する会場
- 第1希望 10月6日(戸塚公民館)
 - 第2希望 10月4日(宏島YMCAホール)
 - 第3希望 10月4日(西區民文化センター)

谷折り

タイトル

河川の中(安佐南区、安佐北区)を一部整備し、「昔たくさんいた淡水魚の増殖や「子供たちの興味を引く身近な魚釣り場」を考えた池(ワンド)を作ること

ひと昔前には太田川や古川の近くには池や沼があり、魚釣りをして遊んだもの
です。それが今はどうでしょう。川は直線化され魚が住めるような池はほとん
どないのが現状です。池には池を本来の住家とする魚がたたくさんいました。タ
ナゴ、ムギツク、イトモロコ、モツゴなどです。また、池や川を行き来する魚
もたくさんいます。メダカ、コイ、フナ、ナマズなどです。魚以外では、水鳥、
トンボ、カメ、スッポン、ヘビなどです。

これらの生物は、河川の中に自然に水が入れ替わるような池(ワンド)を造る
ことで、再び増えていくことでしょう。そして、昔のように親子連れで魚釣り
をしたり、トンボ捕りをするような光景を再現したいものです。

災害を亡くすことを中心に河川は構造を変えてきました。その結果絶滅に瀕
している生物もたくさんいます。河川の安全を保ちつつ、これらの生物を回復
させる池(ワンド)を造ってみたいものです。

タイトル 河川の中を一部整備し、「昔たくさんいた淡水魚の増殖」や「子供たちの興味を引く身近な魚釣り場」を考えた池(ワンド)を造る

ひと昔前には太田川や古川の近くには池や沼があり、魚釣りなどをして遊んだもの
です。それが今はどうでしょう。川は直線化され魚が住めるような池はほとん
どないのが現状です。池には池を本来の住家とする魚が沢山いました。タ
ナゴ、ムギツク、イトモロコ、モツゴなどです。また池や川を行き来する魚も
沢山います。メダカ、フナ、コイ、ナマズなどです。魚以外では、水鳥、トン
ボ、カメ、ヘビなどです。これらの生物は、河川の中に自然に水が入れ替わ
るような池(ワンド)を造ることで再び増えていくことでしょう。そして、昔の
ように親子連れで魚釣りをしたり、トンボ捕りをするよ

谷折

うな光景を再現したいものです。災害を亡くすことを中心に河川は構造を変えて
きました。その結果絶滅または絶滅に瀕している生物も沢山います。河川の安全
を保ちつつ、これらの生物を回復させる池(ワンド)を造ってみたいものです。

*個人情報、発表者の受け付け管理、およびご連絡以外の目的では使用いたしません。
*発表要旨は太田川水系河川整備計画のホームページでも公表させていただきます。

谷折

名前

住所

電話番号

性別

職業

発表番号 ④

番号

なぜここまで関心がないのか？ 広告手法について。

下流域にワンド(人工自然)はいらない。

コンクリートと木工沈床

まずは安全対策・高潮堤防の整備

活用計画

理解する心・優しさ

専門家の言いつ放しを感じた。

自分で多分野の事を勉強して臨んでほしい。=理解する心・優しさを

さらなる透明性を！

環境というオブラート・NEWビジネスに待った！

治水・利水・環境+ α (優しさ)

発表番号⑤

タイトル

太田川上流の洪水時に鬼ヶ事

と	と	の	が	堤	の	谷	人	来	因	ま	か	二	通	十
家	あ	で	そ	防	流	川	な	フ	川	し	う	時	夜	七
が	ふ	川	の	の	汎	が	事	に	の	た	の	か	で	年
水	汎	の	ト	下	が	あ	に	に	水	が	申	ら	し	九
災	帰	水	ン	に	太	り	な	極	量	と	し	に	た	月
害	り	位	ネ	ト	田	出	フ	と	の	出	し	か	4	
に	捌	が	ル	ン	川	ん	た	人	増	夜	に	な	台	日
な	け	そ	が	ネ	に	ぼ	か	自	す	の	そ	い	風	私
る	水	の	下	ル	流	の	と	と	は	事	の	と	か	の
事	に	捌	の	の	汎	水	為	避	か	雨	様	り	来	兄
が	な	け	字	中	て	と	え	難	り	量	に	げ	る	が
素	り	水	に	ま	い	別	ま	し	て	と	し	な	の	そ
人	ま	お	な	通	ま	い	す	ま	床	異	と	い	と	く
の	せ	り	フ	フ	す	て	に	し	下	常	値	と	重	な
私	ん	高	て	フ	こ	い	家	た	ま	に	く	引	り	り
で	の	く	い	い	の	ま	の	な	で	各	事	受	昏	五
と	で	な	ま	ま	流	可	横	せ	水	り	に	の	間	日
分	四	る	す	す	が	と	と	こ	か	不	し	方	に	か

谷折り

せ	で	し	に	い	の	誰	せ	で	ん	回	あ	の	し	り
ん	す	な	ど	る	台	か	ん	と	ぬ	位	の	方	て	ま
か	か	け	う	温	風	保	ご	取	ん	し	時	に	頂	し
い	ど	汎	に	い	の	障	ご	り	ば	か	の	言	け	た
い	う	ば	と	て	度	し	100	合	か	な	水	つ	な	こ
い	に	い	な	い	に	て	年	り	い	は	た	い	汎	
い	か	け	ら	ま	卑	く	に	て	で	第	100	の	か	き
	な	な	ず	す	汎	一	頂	今	た	年	で	と	何	と
	り	い	我	本	い	ま	回	け	日	と	に	す	所	と
	王	の	慢	堂	思	す	と	ま	ま	う	一	か	議	か

※個人情報、発表者の受け付け管理、および連絡以外の目的では使用いたしません。
 ※発表要旨は太田川水系河川整備計画のホームページでも公表させていただきます。

名前 _____

住所 _____

電話番号 _____

性別 _____

職業 _____

発表番号 ⑥

希望する会場 第1希望 月 日 ()

第2希望 月 日 ()

第3希望 10月7日 ()

私たちが生まれ育ったこの土地は、山と川に恵まれ自然一杯の環境にあります。山と川は深い繋がりがあり、治山治水事業を怠れば災害を起こす要因になります。太田川が地元灌漑用水だけでなく広島県に於いても水力発電用水、飲料水、工業用水等重要な役割を担っていることは明白であります。

今日、地球環境が激変している状況からして、今までの防災基準を根本的に見直す必要があると思います。太田川流域に住む一住民として、現状を踏まえた下記災害防止対策を提言しますので早急に対応されることを望みます。

記

【工事関係】

1. 太田川に架かる旧JRの橋脚の撤去
 - ①流木が橋脚に掛かり、水流を止め両岸に氾濫し洪水になる。
 - ②橋脚撤去後は、水流が変わるので下流域の対応をセットで考える。
2. 太田川に沿った国道の石垣（空積み）の補強
 - ①国道の石垣が空積みなので、雑木が生え成木になると、洪水時に流木等が掛かり、石垣が崩壊し国道が通行止めとなる。
3. 太田川本流と支流が合流する地点の堤防の強化
 - ①合流地点の直近下流の崩壊がひどい（西宗川・小河内川・鈴張川・吉山川）のでより強化を図る。
4. 太田川両岸の堤防嵩上げ
 - ①堤防の嵩上げをすると、水流は対岸に波及するため両岸を視野に検討する。
5. 太田川河川敷の立木撤去
 - ①河川敷が立木で塞がれ、水流の調整ができなくなっている。

【情報関係】

1. 情報の開示に努める
 - ①中長期的展望に立って計画されることであるが、見直しも含め毎年どのように実施されたか県民に分かるように報告する。
2. ダム放流の具体的放送
 - ①防災無線放送でダム放流を知らされているが、何処地区は何時頃に増水しますと地域と時間が放送されることにより、より安全が確保できる。
3. 堤防工事の優先順位
 - ①堤防工事は、被災地が優先されることに異論はないが、かろうじて堤防を越えなかった地区で、耕地面積（900アール）人家戸数（28戸）は相当な地区であり、同等に扱うべきと思う。

4. 避難場所の確保

①太田川の山沿い下流と川下に下がる程 水量は増し、相定風の重能が起きること

憂慮する。人間の力は自然には勝てないと言われているように、最後は人命尊重に則り安全な避難場所の確保は最重要課題だと思う。

「太田川住民意見を聴く会」発表要旨を別紙の通りFAX. 送付しますのでよろしく
お願い致します。

名 前

住 所

電 話

性 別

職 業

発表番号 ⑦

希望会場 第1希望 10月7日 川・森・文化・交流センター

第2希望 10月5日 湯来南公民館

第3希望 10月5日 安佐北区総合福祉センター

タイトル

河川工事に於る課題について
一坪野新堤の事例による一

巨大災害対策の一の方として、先づ堤防の新設工事、迅速な実施を中核に不承を承るべきである。坪野新堤の事例は、迅速な実施を中核に不承を承るべきである。

とくに以下の3点が、体験に照らして納得し難いところである。

①築堤が兩岸を不承に広域的設計によるべきなのに、一帯の全体像が不明な点。お互に対岸の強い影響を受けてきて、神統とかが了せられてくるの、片岸ずつの政め懸け合いに任せることの愚意が。

②集中豪雨による洪水量の増大にかゝらず、築堤によって川幅が狭くなること。築堤が集落の下半分のため、歴史的に危険な上半分が補強も行われない。このア

谷折り

ンバランスが大車を惹起しないうかが、下流側に水内川との合流も心配。

③水の中「輪中堤」は、堤内の水はけが課題で、動力ポンプによる排水が世帯長が、所轄庁の選任で南に合流しない点が大きな懸念。局地災害の多発傾向があり、一体的総合的な施工が期待をします。

結論として、地域の歴史的事例の調査重視すべきだと思います。

※個人情報、発表者の受け付け管理、およびご連絡以外の目的では使用いたしません。
※発表要旨は太田川水系河川整備計画のホームページでも公表させていただきます。

名前

住所

電話番号

性別

歳

職業

発表番号 ⑨

希望する会場 第1希望 10月7日(川森文化交流センター)

第2希望 月 日()

第3希望 月 日()